

1 病気の概要

(1) 【ジフテリアの概要】

ジフテリアはジフテリア菌により発生する疾病です。その発生は最後に報告されたのが、1999年であり稀になりましたが、かつては年間8万人以上の患者が発生し、そのうち10%程度が亡くなっていた重要な病気です。主に気道の分泌物によってうつり、喉などに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、眼球や横隔膜（呼吸に必要な筋肉）などの麻痺、心不全等を来たして、重篤になる場合や亡くなってしまふ場合があります。

(2) 【破傷風の概要】

破傷風は、破傷風菌により発生し、かかった場合に亡くなる割合が非常に高い病気です。以前は新生児の発生もみられましたが、近年は30歳以上の成人を中心に患者が発生しています。

主に傷口に菌が入り込んで感染を起こし毒素を通して、さまざまな神経に作用します。口が開き難い、顎が疲れるといった症状に始まり、歩行や排尿・排便の障害などを経て、最後に全身の筋肉が固くなって体を弓のように反り返せたり、息ができなくなったりし、亡くなることもあります。

(3) 【百日せきの概要】

百日せきは百日咳菌によって発生します。名前のとおり激しい咳をともなう病気で、1歳以下の乳児、とくに生後6か月以下の子どもでは亡くなってしまふこともあります。

主に気道の分泌物によってうつり、咳のために乳幼児では呼吸ができなくなるために全身が青紫色になってしまうこと（チアノーゼ）やけいれんを起こすことがあります。また、窒息や肺炎等の合併症が致命的となることがあります。

百日せきにかかった場合、一般に0.2%（月齢6か月以内の場合は0.6%）のお子さんが亡くなってしまふといわれています。また、肺炎になってしまうお子さんが5%程度（月齢6か月以内の場合は約12%）いるとされており、その他けいれんや脳炎を引き起こしてしまふ場合もあります。

(4) 【ポリオ（急性灰白髄炎）の概要】

ポリオ（急性灰白髄炎）は脊髄性小児麻痺とも呼ばれ、ポリオウイルスによって発生する疾病です。名前のとおり子ども（特に5歳以下）がかかることが多く、麻痺などを起こすことのある病気です。

主に感染した人の便を介してうつり、手足の筋肉や呼吸する筋肉等に作用して麻痺を生じることがあります。永続的な後遺症を残すことがあり、特に成人では亡くなる確率も高いものとなっています。

(5) 【H i b 感染症の概要】

H i b 感染症は、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型（Haemophilus influenzae type b）という細菌によって発生する病気です、そのほとんどが5歳未満で発生し、特に乳幼児で発生に注意が必要です。

主に気道の分泌物により感染を起こし、症状がないまま菌を保有（保菌）して日常生活を送っている子どもも多くいます。この菌が何らかのきっかけで進展すると、肺炎、敗血症、髄膜炎、化膿性の関節炎等の重篤な疾患を引き起こすことがあり、これらを起こした方のうち3～6%が亡くなってしまふといわれています。また、特に髄膜炎の場合は、生存した子どもの20%に難聴などの後遺症を残すといわれています。

2 ワクチンの効果

1つのワクチンで5つの感染症を予防する効果が期待できます。それぞれの感染症に対する効果として知られているのは、以下の通りです。

- * ポリオに対して、ワクチン接種により、99%の方が十分な抗体を獲得すると報告されています。
- * 百日せきの罹患リスクを、ワクチン接種により80～85%程度減らすことができると報告されています。
- * 破傷風に対して、ワクチン接種により、100%近い方が十分な抗体を獲得すると報告されています。
- * ジフテリアに対して、ワクチン接種により、罹患リスクを95%程度減らすことができると報告されています。
- * H i b による髄膜炎や髄膜炎以外の侵襲性感染症を減少する効果が期待できます。H i b ワクチンは我が国を含め世界の多くの国々で現在使用されており、その結果、H i b による髄膜炎症例は激減しています。2008-2010年とH i b ワクチン定期接種化後の2014年を比較すると、インフルエンザ菌髄膜炎の5歳未満人口10万人あたり罹患率が、7.7から0.0に100%減少し、インフルエンザ菌による髄膜炎以外の侵襲性感染症の罹患率が5.1から0.5に90%減少しました。

3 使用するワクチン

5種混合ワクチンとは、ジフテリアワクチンを、百日せき・破傷風・不活化ポリオ・ヘモフィルスインフルエンザ菌b型（H i b）の各ワクチンと混合したワクチンです。

4 接種の対象者とスケジュール

初回接種：生後2～7か月に至るまでの期間を標準的な接種期間として20日以上（標準的には20～56日まで）の間隔をおいて3回接種します。

追加接種：初回接種終了後6か月以上（標準的には6～18か月まで）の間隔をおいて1回接種します。



5 ワクチンの安全性

阪大微研製のワクチンでは、皮下注射の場合は発熱（37.5℃以上）が57.9%、接種部位の紅斑が78.9%、接種部位の硬結が46.6%、および接種部位の腫脹が30.1%でした。

KMバイオロジクス製のワクチンでは、皮下注射の場合は接種6日後までに発現した発熱が65.2%、接種部位の紅斑が75.7%、接種部位の硬結が51.0%、および接種部位の腫脹が38.1%でした。

また、5種混合ワクチンの臨床試験における発熱の頻度が他のワクチンより高いことについては、審議会において、他のワクチンとの同時接種の影響があり得る等の指摘がありますが、5種混合ワクチンに係る安全性について大きな懸念は指摘されておりません。

6 接種を受けられない方

以下の方は、接種を受けることができません。

- * 5種混合ワクチンの成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方
- また、以下のような場合は接種を受けることができませんので、治ってから受けるようにしてください。
- * 発熱している。
- * 重篤な急性疾患にかかっている。

7 接種に注意が必要な方

以下の方は、接種にあたって注意が必要なので、あらかじめ医師に相談してください。

- * 心臓、腎臓、肝臓、血液の病気や発育障害がある方
- * これまでに、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方
- * けいれんを起こしたことがある方
- * 免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- * 5種混合ワクチンの成分でアレルギーを起こすおそれのある方

8 健康被害救済制度

定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要な場合や生活が不自由になった場合（健康被害）は、法律に定められた救済制度（健康被害救済制度）があります。田川市民の方で制度の利用を申し込むときは、田川市保健センターにご相談ください。（制度利用には、一定の条件有り）

(参考) こうせいろうどうしやう [厚生労働省] よぼうせつしゆ 予防接種・ ワクチン情報		こうせいろうどうしやう [厚生労働省] よぼうせつしゆけんこう 予防接種健康 ひがいきゅうさいせいど 被害救済制度	たがわし [田川市] よぼうせつしゆ 予防接種の 案内	ふくおかけんない 福岡県内 よぼうせつしゆ 予防接種 たんとうか 担当課
	(QR codes for the respective organizations)			

【問い合わせ先】 予防接種に関するご相談等は、住民票のある市区町村にご連絡下さい。

田川市福祉部保健福祉課保健センター TEL 0947-44-8270

※この説明書は、主に厚生労働省のHPを元として、田川市保健センターが作成しています。

【裏面もご覧ください】